安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める
茨城県市民連合 NEWS
2016.5.25
vol.1

茨城県市民連合結成のつどい
350 人の市民であふれる！！

中野 晃一氏
350人の参加者で、溢れかえった会場
諏訪原 健氏
壇上に勢ぞろいした呼びかけ人と講演者
スピーチする村上達也氏。
会場から溢れて出入口で耳を傾ける参加者

去る４月 13 日（水）、茨城県総合福祉会館において、「茨城県市民連合結成のつどい」が開催されました。会場となったホールには、入りきれないほどの聴衆がつめかけ、熱気でいっぱいの集いとなりました。

つどいでは、呼びかけ人となった、村上達也元東海村長らの挨拶のほか、立憲デモクラシーの会の中野晃一先生の講演がありました（講演の内容は２～４ページを参照ください）。また、SEALDs の諏訪原健さん（筑波大学）がかけつけ、茨城県市民連合結成にエールが送られました。集いでは、次のとおり結成宣言が採択され、市民連合の活動の趣旨や方針、共同代表の就任を確認しました。

〔結成宣言〕

市民連合は、昨年の安保関連法案に反対する総がかり行動を担った多くの諸団体の経験と英知から生まれてきました。法案の制定阻止から違憲の法律廃止および憲法による権力の歯止めにむけて野党共闘の実現・野党の多数派形成を呼びかけた団体有志の決断がいまや全国に浸透し、相次ぐ地域市民連合の発足をもたらしています。

市民が野党を動かし共闘を実現している。市民連合の存在感は日増しに高くなっている。これが誇大宣伝でないことは日々証明されています。

メディアの報ずるところ、すでに、夏の参院選に向けた野党共闘は、３２の改選１人区のうち１５選挙区で野党候補一本化に合意し、さらに１０選挙区で統一候補について協議がすすんでいるところまできています。

衆参同日選挙あるいは衆議院総選挙の前倒しが喧伝されており、衆議院での野党多数派形成で安保関連法の廃止措置をとりうる可能性もでてきており、野党共闘の拡大強化はいっそうつよく求められております。市民連合のはたすべき役割はさらに大きくなっているといえます。

茨城県市民連合は、１．安保関連法の廃止、２．立憲主義の回復（これには一昨年７月１日の集団的自衛権行使容認閣議決定の撤回を含む）、３．個人の尊厳を尊重する政治の実現、を基本目標とし、その実現に向かう野党共闘を要求し、かつ、この目標に対する政治姿勢・公約を基準にして国政選挙における候補者の推薦と支援をおこないます。

まずは、来る７月の参議院選挙にむけて、具体的に候補者・関係政党と協議し、基本目標への同意を確認して、統一候補に全野党はもちろん、多数の県民有権者を結集させていく運動を全力を挙げて追求します。

茨城県市民連合の名において、多数の県民有権者に統一候補者への支援を力強く訴えていきます。そのためには、茨城県市民連合の結成と掲げる基本目標への賛同者を拡大し、賛同者各人が居住域や職域において啓蒙・宣伝活動を精力的に行なわなければなりません。

以上の行動は、疑いもなく憲法１２条にいう自由と民主主義擁護のための「国民の不断の努力」であります。正義は、私たちにあります。これに確信をもち、子や孫に平和で個々人が尊重される社会を確保する崇高な闘いに勝利するために連帯して頑張りましょう。

２０１６年４月１３日

安保関連法の廃止、立憲主義の回復を求める

茨城県市民連合結成のつどい参加者一同

****

＜共同代表のかおぶれ＞

市川　紀行(元美浦村長)

井坂　敦実（元筑波町長）

川田　弘二(元阿見町長)

川口　玉留(戦争させない 1000 人委員会県南協議会代表)

小久保　忠男(元古河市長)

鈴木　邦夫(元茨城新聞編集局長)

原中　勝征(元日本医師会長)

藤澤　順一(元つくば市長)

二見　伸明(元運輸大臣・公明党)

先崎　千尋(元瓜連町長)

益子　絹枝(画家)

村上　達也(元東海村長)

谷萩　陽一(元日弁連副会長)

[事務局長]田村　武夫（元茨城大学副学長）

****

［中野晃一先生　講演録］

昨年の夏は国会前でも全国各地でも、多くの方が一人ひとりの思いを胸に、自分の足で行動に立ち上がりました。そのことが今の運動の原点になっています。この先多くの苦難があったとしてもその初心を忘れないことが何よりも大事なことではないかと思います。個人的な視点ですが、どうして市民運動が盛り上がってきたのか野党共闘の課題について、今日は考えたいと思います。

私は政治学をやっているのですが、実際の政治に関わるかたちで運動をするようになるとは思いもしませんでした、政治運動に関わるようになったのは、小泉政権が誕生して以降、政治の動きを見ていて、「これは今までとはだいぶ違う相当薄気味悪いことが始まっている」と感じ、自民党の変貌ぶり、日本の保守がどう変わってきているのかについて研究を始めたことでした。

安倍第一次政権が始まった頃には、自分の大学でシンポジウムや研究会を始めました。安倍政権が１年で倒れて自民党が下野するという形で迷走を続けていき、右傾化を心配するという状況ではなくなりました。その後自民党の弱体化の中、３年３ヶ月の民主党政権が国民の信頼を失い、野党が不在となる中、安倍政権が 2012 年 12 月に再び発足されます。この段階で、これはいよいよまずいと。私はその間に一人息子を授かり、子どもを持つ親になりました。自分自身は戦後、曲がりなりにも平和と繁栄の中に育ち社会に出ることができた。しかし、これを自分の息子に受け渡すことができるのかということを考えたときに、この政治状況に危機感を持つようになりました。

◇９６条の会をきっかけに

2013 年に入って、当時「日本維新の会」の大阪の橋下徹さんと安倍さんたちとの茶番といいますか、野党の振りをしながら連携しているという状況が始まっていて、参議院選の前だったと思いますが、憲法９６条を改正し改憲のハードルを下げていこうという維新と自民党が一致して協力をしていく動きを見せた時に、樋口陽一先生、山口二郎さんなど現在の立憲デモクラシーの会と重なるメンバーで「９６条の会」を立ち上げ、私も参加することになりました。上智大学で行われた９６条の会発足集会では、会場に参加者が早くから来られ行列ができ始めて、1,000 人を超える人が中継を見る形で参加されました。多くの人が直感的にこの政権はまずいと、憲法を変えようとする企

てに敏感に反応されていることを目の当たりにした最初でした。参院選前だったことと、メディアも大きく取り上げてくれたこともあって、安倍さんはとりあえず９６条の改正についてはあきらめるということになりました。

９６条の会は、９６条の改定に反対することを目的としていましたので、この会は休会状態となりました。しかし、その後安倍さんはそれに留まることなく、参院選に勝利をし、その先にどんどん進んでいこうと、2013 年でいえば特定秘密保護法、まるで自分の政権の１周年を祝うかのように靖国参拝したことをご記憶している人も多いかと思います。

９６条の会というのは、特定秘密保護法の時には動けなかったということがありました。安保法制に反対する学者の会の中心的メンバーである佐藤学先生が別組織を作られて、そちらの方に私も加わりました。しかしながら特定秘密保護法は通ってしまった。今振り返ると、このときの特定秘密保護法に反対する多くの市民の広がりが、その後の運動につながっていく流れとなっていった。演劇人、作家、市民はもちろん本当に多くの方が声をあげました。

◇シールズとの出会い

その時に同じように国会前に来ていた若者たちが、私たち中高年が「民主主義は死んだ」と嘆いているのを見て、「民主主義が死んだのなら、始めたらいいじゃないか」という事で、シールズにつながるサスプル（SASPL）を立ち上げた。何といっても彼らは 90 年代以降に生まれ、まだ２０代半ば。失うというのがそもそもない、失われた 10 年、20 年という中で生まれ育って、そして東日本大震災を高校の時に経験し、ボランティアを通じて、メディアを通じて、福島・東北の状況を目の当たりにした。瓦礫からの出発をしている彼らの世代は、実に清新な思いを持ちつつ、秘密保護法が通った後にサスプルを作るというのは間抜けではないかという気もありますが、そこは前向きといいますか、くじけない、へこたれない、そのことには驚嘆せざるを得ない。彼らの発想からいくと、法律は通ったかもしれないが、施行までにはまだ時間がある、少しでもこの法律の問題点を明らかにして、改善できることがあるとして、その先もまだ反対していかなければならないと。ふて寝をしてしまった私からすると大いに反省するところがあった。首を垂れる思いです。

◇小選挙区制がもたらす少数派支配

小泉政権後、自民党の絶対得票率は、１３．５～１８．８％で、民主党に惜敗をした時が一番高かった。自民党は決して得票を伸ばしているわけではありません。１６～１７％で推移し、これは６人に１人が投票している割合です。これは６人に１人の得票で政権を維持できるということで、野党が分断していても投票率が低ければ、自民党はコア層である６人に１人の固定客だけで何度選挙しても勝てるというのが小選挙区制であり、地方１人区のマジックなのです。

だから、自民党はより多くの国民の支持を得ようなどとは全く思っていない。人々をげんなりさせる、無力感を味あわせる、政治にあきらめモードにする、そして野党を分断する。彼らが政権を維持するのに必要なのは、決してより多くの国民に好いてもらうことではない。支持を増やそうなんて考えていない。それくらいあくどい政権なんだとご承知してください。では、われわれはどうするか？投票率をあげて野党が共闘するんです。

◇野党共闘で安倍政権を追い詰める

受け皿を作る、それによって、このばかげた電挙制度の結果、少数派支配が現実のものとなっていることをくつがえすのです。分断を乗り越えること、共闘を貫くこと、有権者に向かってこの選挙には行った方がいい、というアピールをしていく。野党共闘をつくって、なにしろこの選挙に行くべきだ、郵政民営化のあの選挙を逆手にとって、１人区において対決構造を明確にみせる。国家権力を暴走させて、欲しいがままに荒れ狂う安倍政権を退陣させるために、市民の後押しを得た野党共闘がここでそれを食い止める。そういう構図があちこちで生まれてくる。そうなってくれば、「行っても無駄だしたいして変わらない」と考えてい

た多くの諦めていた人たちに、いやいや行かないとまずい、行く価値がある、野党をここで後押しするということが日本の将来を考えた時に絶対にやるべきだと伝えることができます。１人でも多くの人につながっていけば、１人区で勝てる議席が増えていきます。

残念ながら今年の選挙だけですべてが片づくということではありません。市民社会が妥協することなく、どう巻き返すかを考えながら野党を後押ししていく。５年先に「だいぶましになったね」と言えるよう、ここから変化を作っていきましょう。

****

〔全国の情勢〕

●自民と４野党、全１人区で激突＝民共など一本化実質完了ー参院選公示まで１カ月

（時事通信　2016/05/23-20:15）抜粋

夏の参院選が６月２２日公示、７月１０日投開票の見通しとなり、与野党は選挙戦開始まで１カ月を切り臨戦態勢に入っている。全体の勝敗を左右するのは、全国に３２ある改選数１の「１人区」だ。民進、共産、社民、生活の４野党は１人区の候補者一本化作業を実質的に終えた。全１人区で自民党と４野党の統一候補が激突することになる。４野党は２３日、三重選挙区で民進現職を統一候補とすることで合意し、３１の１人区で一本化が完了。残る佐賀選挙区でも、民進元職への一本化を月内にも決定する見込みだ。佐賀も含めると、統一候補の内訳は無所属１６人、民進公認１５人、共産公認１人となる。

◇野党統一候補の内訳

【無所属（１６選挙区）】岩手、山形、栃木、新潟、富山、石川、福井、和歌山、「鳥取・島根」、山口、「徳島・高知」、愛媛、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

【民進公認（１５選挙区）】青森、宮城、秋田、福島、群馬、山梨、長野、岐阜、三重、滋賀、奈良、岡山、佐賀、長崎、大分

【共産公認（１選挙区）】　香川

（※）佐賀は調整中

●2000 万人署名、6/30 まで継続決定！

「戦争させない・９条壊すな！総がかり行動実行委員会」を中心に進められていた「戦争法の廃止を求める 2000 万人統一署名」は、5/19 に第一次提出分として 1200 万筆超が提出されました。また、同署名は 4/25 までと告知されておりましたが、6/30 に継続されることになりました。

＜茨城県内の関連イベント＞

【講演と対話の夕べ
『戦争法廃止の実現を目指して』】

★5/26(木)18:30～つくばイノベーションプラザ

☆井上圭一さん＆先崎千尋さんの講演

★資料代 500 円

☆主催：戦争をする国づくり NO@つくば

【映画『サクラ花』上映会】

★5/28(土)①10:30 ②14:00 ③18:30

☆古河ユースセンター総和

★主催；戦争法制に反対する
茨城県西部地域実行委員会

【平和・年金・医療・農業を守る講演会】

★5/29(日)14:00～　筑西生涯学習センター

☆小林節氏、鈴木亘弘氏、福島伸亨氏、原口勝征氏

★茨城県市民連合、TPP 阻止国民会議などの共催

【第５６回茨城県母親大会】

★6/5(日)10:00～16:30　結城アクロス

☆記念講演；高遠菜穂子さん『イラクから見る日本』

【９条の会茨城県交流会
『みんなで話そう、選挙のこと、戦争のこと』】

★6/15(火)14:00～17:00　茨城県立青少年会館

☆高田健さん講演＆交流会

★主催；９条の会茨城県連絡会

〔発行〕茨城県市民連合事務局
〒305-0005　つくば市天久保 1-10-12、1-401
029－856－2286　090－7845－6599(長田)
029－831－6288　090－3537－2632(福田)
HOMEPAGE: http://ibr-shiminrengo.jimdo.com/
FACEBOOK: www.facebook.com/ibrshiminrengo
TWITTER： @ibr_shiminrengo